

自己点検・自己評価表（平成 29 年度）

1. 学校の教育目標

本学園の建学の精神である「私たちの学ぶ技術は、芸術であり、科学であり、職業でもある」を基盤にして「心ある、そして考える医療人を育てる」という教育理念のもと、学生一人ひとりの個性を大切に、対象となる人々に寄り添い相手を慮る（おもんばかり）心を育み、また、常に多角的な視点から思慮深く考え、共創の心をもって医療を実践できる能力を育てる。

目標を達成するために、生命の尊厳と個々の人格の尊重を基盤とした豊かな感性と幅広い教養を身に付けた「人間性の教育」、理論的思考・深い洞察力と判断力により、主体的・創造的に医療を実践できる「専門性の教育」、地域の保健ニーズを理解し、保健医療福祉チームの一員として、組織的に支援できる「社会性の教育」、学問への探求心とその向上・発展に貢献できる「向上性の教育」に注力し教育を実践する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1) 教育の質的向上を図る

- ①授業評価結果の運用について検討する
- ②外部講師との連携を強化する
- ③3つのポリシー（アドミッション・カリキュラム・ディプロマ）を策定する

2) 職場環境を整備する

- ①「医療人を育成する」教職員としての行動を心がける

3) 退学率低減に向けた具体的取組みを行う

- ①プロジェクトチームを発足し、検討・実施する

3. 評価項目の達成、取り組み状況

1. 教育理念・目的・育成人材像

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
理念・目的・育成人材像は定められているか。	④	3	2	1
育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	④	3	2	1
理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4	③	2	1
社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4	③	2	1
理念等、将来構想を教職員に周知しているか	④	3	2	1

①課題

- ・カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーと設置科目との関連性を明確に示せていない。

②今後の改善方策

- ・カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーと設置科目との関連性を検討する

③特記事項

- ・教育会議にて、3つのポリシーを策定し、学校HPにて公開した。
- ・学内ポータルサイトで理念や将来構想について記載されている新年度会で使用したスライドを載せ、教職員がいつでも閲覧できる環境を整えた。

2. 学校運営

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
理念に沿った運営方針を定めているか	4	③	2	1
理念等を達成するための事業計画を定めているか	4	③	2	1
運営方針、事業計画を教職員に周知しているか	④	3	2	1
設置法人は組織運営を適切に行っているか	④	3	2	1
学校運営のための組織を整備しているか	④	3	2	1
人事・給与に関する制度を整備しているか	④	3	2	1
意思決定システムを整備しているか	④	3	2	1
情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	4	3	②	1

①課題

- ・ 学園としての運営方針・事業計画を基にして、学校としての方針・計画に落とし込めていない。
- ・ 情報システムの整備について方向性は明確であるが、具体的実施に向けて取り組めていない。

②今後の改善方策

- ・ 学校単位での運営方針・事業計画を策定する。
- ・ 情報システム整備に関する予算を捻出する。

③特記事項

- ・ 学内ポータルサイトで運営方針等について記載されている新年度会で使用したスライドを載せ、教職員がいつでも閲覧できる環境を整えた。

3. 教育活動

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	④	3	2	1
学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	④	3	2	1
教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	④	3	2	1
教育課程について、外部の意見を反映しているか	4	③	2	1
キャリア教育を実施しているか	④	3	2	1
授業評価を実施しているか	④	3	2	1
成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	④	3	2	1
目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	④	3	2	1
資格・免許取得の指導体制はあるか	④	3	2	1
資格・要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
教員の資質向上への取組みを行っているか	4	③	2	1
教員の組織体制を整備しているか	4	③	2	1

①課題

- ・看護学科二年課程において教育課程に関して外部の意見を組織的に聴取する体制が整っていない。
- ・教員の育成目標並びに育成計画を明確に示せていない。
- ・教員相互評価の在り方を再構築する必要がある。

②今後の改善方策

- ・看護学科二年課程における教育課程編成委員会設置を検討する。
- ・教員の育成目標を明確に示す。
- ・学校として教職員の研修計画立案についての方策を検討する。

③特記事項

- ・全学科における3つのポリシーを策定し、学校HPにて公開した。
- ・今年度の教育課程編成委員会をリハビリテーション学科（5/15・12/4）、東洋医療総合学科（8/7・12/18）に実施した。
- ・全学科において外部講師の授業も含め、学生による授業評価（振り返りシート）を4月より実施し始めた。
- ・外部講師との連携を深めるため、「講師のしおり」を策定することとなった。
- ・教育活動の支援体制として「学習支援対策委員会」の機能を細分化し、「教育力向上小委員会」「国家試験対策小委員会」「入学前教育小委員会」「初年次教育小委員会」の各小委員会を設け、より円滑に支援を実施する体制を整えた。
- ・平成28年度卒業生並びに就職先へのアンケートを12月から1月にかけて実施した。

4. 学修成果

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切	2：やや不適切	1：不適切
就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
資格・免許の取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
卒業生の社会的評価を把握しているか	④	3	2	1

①課 題

- ・卒業生アンケートの回収率が学科により低いところがある。

②今後の改善方策

- ・卒業生並びに就職先へのアンケート回収率を上げるための対策を実施する。

③特記事項

- ・資格取得に向けた計画の進捗について「国家試験対策小委員会」でその情報を共有することとなった。
- ・平成29年度卒業生の4月末時点の専門分野就職率は看護学科二年課程93.5%、東洋医療総合学科1部は84.6%、東洋医療総合学科2部は73.1%、リハビリテーション学科は84.4%、臨床教育専攻科は95.7%であった。
- ・国家試験の合格率は看護学科二年課程は100%、リハビリテーション学科は86.5%、東洋医療総合学科はあん摩マッサージ指圧師は1部・2部共に100%、はり師は1部88.5%、2部は84.6%、きゅう師は1部は96.2%、2部は88.5%、看護学科二年課程（通信制）は91.6%であり、全学科において全国平均を上回る合格率となった。

5. 学生支援

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	③	2	1
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
学生相談に関する体制を整備しているか	4	③	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	③	2	1
学生の健康管理を行う体制を整備しているか	④	3	2	1
地方からの入学生に対する生活環境支援体制を整備しているか	4	③	2	1
課外活動に対する支援体制を整備しているか	4	③	2	1
保護者との連携体制を構築しているか	4	③	2	1
卒業生への支援体制を整備しているか	4	③	2	1
産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	4	③	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	4	③	2	1

①課 題

- ・ 学生個々の就職に関する情報を、教務と事務とが共有できる環境づくり。
- ・ 学生面談室の環境がプライバシーに配慮した設備となっていない。
- ・ 全学生を対象とした学校独自の経済的支援体制（奨学金制度）が確立できていない。
- ・ 課外活動に対する学生の要望があった場合の対応等について不明確である。
- ・ 学校として同窓会との連携体制が不十分である。

②今後の改善方策

- ・ 履歴書添削や模擬面接などの指導内容を教務と事務とで共有する機会を設ける。

③特記事項

- ・ 退学率低減に向け、教務部長を中心とした「退学率低減プロジェクトチーム」を編成し、13回の会議を実施した。
- ・ 退学者数は前年比で10名減少した。

6. 教育環境

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	④	3	2	1
学外実習の実施体制を整備しているか	④	3	2	1
海外研修の実施体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	④	3	2	1
学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	④	3	2	1

①課題

- ・美化の観点から施設・設備を見直し改善する必要がある。

②今後の改善方策

- ・美化の観点に基づく施設改善計画を立案し、実行していく。

③特記事項

- ・4/26に防災訓練を実施した。
- ・学内ポータルサイトに「危機管理マニュアル」も掲載し、教職員が確認できる環境を整えた。

7. 学生の募集と受け入れ

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	④	3	2	1
学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	4	③	2	1
入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	④	3	2	1
入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	③	2	1
経費内容に対応し、学納金を算定しているか	④	3	2	1
入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	④	3	2	1

①課 題

- ・ 継続して定員確保に向けた募集活動の実施。

②今後の改善方策

- ・ 学習支援の在り方を再検討し、具体的に実施する必要がある。

③特記事項

- ・ 例年実施していた「入学パスポート」を早期より使用できる体制を整えた。
- ・ 「入学前教育小委員会」の活動を通じ、入学準備講座の実施内容等を見直した。
- ・ リハビリテーション学科及び東洋医療総合学科2部で定員を満たすことができなかった。

8. 財 務

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	③	2	1
学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	④	3	2	1
教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	③	2	1
予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4	③	2	1
私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	④	3	2	1
私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	③	2	1

①課 題

- ・ 学校単体での財務基盤は安定しているものの、法人全体としてはやや厳しい状況である。
- ・ 各学科・部署毎の中期計画に基づく予算を立案する必要がある。
- ・ 各学科・部署毎の予算の執行状況を定期的に確認できていない。
- ・ ガイドライン（専門学校における情報提供等への取組みに関するガイドライン）に基づく項目での情報公開ができていない。（事業計画書、貸借対照表、監査報告書など）

②今後の改善方策

- ・ 各学科・部署毎の予算執行状況の管理体制を整える。
- ・ 財務状況に関する項目での情報公開を行う体制を整備する。

③特記事項

- ・ 財務状況の一部を学校 HP にて公開した。

9. 法令等の遵守

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	④	3	2	1
学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	④	3	2	1
自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	④	3	2	1
自己評価結果を公表しているか	④	3	2	1
学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	④	3	2	1
学校関係者評価結果を公表しているか	④	3	2	1
教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	③	2	1

①課題

- ・ 情報公開ガイドラインに基づく情報公開が十分であるとは言えない。
- ・ 情報公開に向けた学内でのチェック体制が明確化していない。

②今後の改善方策

- ・ 情報公開ガイドラインに基づく情報公開を進めるとともに、学内でのチェック体制を明確にする。

③特記事項

- ・ 学校関係者評価委員会を実施した。(5月29日、11月27日)
- ・ 財務状況の一部を学校HPにて公開した。
- ・ リハビリテーション学科及び東洋医療総合学科においては、職業実践専門課程認定に伴い、教育活動について学校HPで公開した。(様式4)

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4	③	2	1

①課題

- ・学生ボランティアに関する担当窓口が不明確であり、周知徹底されていない。

②今後の改善方策

- ・学生ボランティアに関する担当窓口を明確にし、周知徹底を図る。

③特記事項（中間評価）

- ・6/4 に実施された「おおたユニバーサル駅伝」に協賛した。

11. 国際交流

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
国際交流に取り組んでいるか	4	③	2	1

①課題

- ・留学に関する担当窓口が不明確であり、周知徹底されていない。

②今後の改善方策

- ・留学に関する担当窓口を明確にし、周知徹底を図る。

③特記事項（中間評価）

- ・8月に実施した米国研修にはリハビリテーション学科の学生が14名、中国研修には東洋医療総合学科の学生が29名、臨床教育専攻科の学生が1名参加した。
- ・中国で新たに医療系大学を立ち上げるに際し、日本の医療教育（看護師、理学療法士）に関する情報提供を行った。（9月21・22日）
- ・学術提携校である天津中医薬大学との交流30周年記念式典に参加。（10月7・8・9日）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1) 平成 29 年度重点目標に対する取組みと評価結果

(1) 教育の質的向上を図る

① 授業評価結果の運用について検討する

- ・教育会議にて検討し、各学科長よりフィードバックすることになった。但し、外部講師については希望する方のみとする。

② 外部講師との連携を強化する

- ・全学科において「講師会」等を開催することは難しいと判断し、「講師のしおり」を作成・配布することで教育活動等の理解促進を目指すこととなった。

③ 3つのポリシー（アドミッション・カリキュラム・ディプロマ）を策定する

- ・全学科で策定完了し、学校 HP にて公開した。

(2) 職場環境を整備する

① 「医療人を育成する」教職員としての行動を心がける

- ・4月に全教職員を対象とした「職場コミュニケーション スキルアップ研修」を実施した。
- ・9月より、校舎敷地内での全面禁煙を開始した。（教職員は4月から実施）
- ・10月のライフエンス学術研究大会に合わせ、教職員・学生等を対象とした「マナー研修」を実施した。
- ・美化の観点から施設・設備を見直し、改善できる部分については改善した。（消火器の立札、教室の壁の補修、備品棚の整頓など）
- ・情報管理に関し教職員に「情報セキュリティアンケート」を実施し、注意喚起を図るとともに今後の検討課題を抽出した。

(3) 退学率低減に向けた具体的取組みを行う

① プロジェクトチームを発足し、検討・実施する

- ・プロジェクトチームを発足し、13回の会議を実施した。
- ・リハビリテーション学科において、よりよい教育活動やクラス運営を志向し「Hyper-QU」というアンケートを実施した。
- ・リハビリテーション学科において学生・卒業生の入学前状況、在学時の成績や出席状況等のデータを基に、退学者の傾向をより詳細に分析できる素地を作成した。
- ・初年次教育小委員会へ、「合同オリエンテーション」「入学式のありかた」「初年次教育のありかた」などの見直しを依頼した。

2) 平成 30 年度 重点目標

(1) 教育の質的向上を図る

- ①初年次教育の充実を図る
- ②教員の資質向上を図る
- ③教育理念と教育活動との関連性を検討する
- ④教育活動の適正な情報公開に向け検討する

(2) 職場環境を整備する

- ①情報セキュリティに関するルールを策定する
- ②美化の観点に立った環境を整える

(3) 退学率低減に向けた具体的取組みを行う

- ①退学率低減プロジェクトを継続して実施する

(4) 募集状況の改善を図る

- ①全学科定員確保に向けた募集活動を、全教職員一丸となって実施する